

「海にゴミを逃がさない
ため」について

中村 勝 議員
(新政みえ/鳥羽市選出)

問

海に流れ出すゴミの主な発生源と言われる、河川からのゴミ流入については、実態把握が進んでいません。環境省の「漂流・漂着ゴミ国内削減方策モデル調査」に鳥羽市答志島が選定されたことと併せ、伊勢湾再生行動計画を実践するための行動として、伊勢湾全域で漂着ゴミの実態を調査し、クリーンアップ作戦を実施できないでしょうか。

答

伊勢湾には多くの一級河川が注いでおり、河川からの流出をふまえたゴミ漂着経路の調査実施を環境省へ働きかけています。

また、地域で主体的に実施されている海岸清掃活動のネットワーク化など、効果的なクリーンアップが可能となる仕組みづくりを検討します。

○「紀伊半島の時代へ」についてほか



県幹部職員の天下りについて

萩原 量吉 議員
(日本共産党三重県議団/四日市市選出)

問

県職員の天下りを受け入れている建設会社などの、入札に対する落札率が高いのは、再就職した県職員が守秘義務を守っていないからと考えます。官製談合の温床とも言われる、県幹部職員の建設会社などへの天下りをやめるべきではないでしょうか。

答

元職員の働きかけについては、要望等取扱要領により、記録することとしています。また、再就職制限は、法的な側面や職業選択の自由などから慎重に対処すべきであり、法改正も注視しながら検討していきます。

ドクターヘリの整備・推進について

中川 康洋 議員
(公明党/四日市市選出)

問

ドクターヘリは「空飛ぶ救命室」とも呼ばれ、事故、災害現場などに駆けつけ即座に治療に当たります。県全域をカバーしたドクターヘリの配備に向け、関係機関に働きかけ、積極的な検討を始めるべきではないでしょうか。

答

ドクターヘリの導入には、基地となる医療機関の選定、医師・看護師などの医療従事者の確保が重要な課題です。本県の救急医療体制の充実に向けた課題の一つであり、慎重に検討を進めます。

委員会の動き

予算決算常任委員会の
審査・調査の状況

行政部門別常任委員会の
審査・調査の状況

審査・調査の状況

6月21日に政策防災、環境森林農水商工、22日に県土整備企業、教育警察、25日には、総務生活、健康福祉病院の各常任委員会が開催され、付託された議案の審査を行うとともに、所管部局の事務について調査を行いました。

さらに、「県民しあわせプラン第一次戦略計画」の3年間の取り組みをふまえ、前年度の事業の成果と課題、今年度の取り組み方向をまとめた「二〇〇七年版県政報告書(案)」について、翌年度の県政運営に反映させることを目的に、各委員会で調査を行い、意見をとりまとめました。

また、今後、7月から11月にかけて、常任委員会ごとに、所管事項に関する先進事例や現状などを把握するため、県内および県外の調査を実施し、その調査結果をもとに県政運営へ反映させていきます。

今回、予算決算常任委員会では、「平成19年度三重県一般会計補正予算(第一号)」ほか11件の議案について、政策防災、健康福祉病院、環境森林農水商工、県土整備企業、教育警察および総務生活の分科会が行政部門別常任委員会と同時に開催され、それぞれの議案の詳細審査を分担しました。

また、各分科会で交付決定実績調査の調査を行いました。

6月27日には、委員会を開催し、各分科会委員長による審査結果報告を受けた後、付託された全ての議案を可決すべきものと決定するとともに、補正予算に対する附帯決議案を全会一致で可決しました。

また、7月12日には、委員会を開催し、第2回定例会中に提出された「二〇〇七年版県政報告書」に対する各行政部門別常任委員会の意見を参考に、予算決算常任委員会としての意見を取りまとめる予定です。